

鰻苗購入放流事業

目片徳治・西村捨彌

I まえがき

大中の湖干拓に伴う補殖補償施設による増殖事業の一環として昭和34年8月から鰻苗の購入放流を実施した。なお、別に県漁業協同組合連合会においてもほぼ同時期に同種の事業を行なっているため購入計画、放流など事業全般にわたって緊密な連絡を取りながら実施した。

II 事業の実施期間

自昭和34年8月21日

至昭和34年9月10日

III 事業実施場所及び施設

購入鰻苗の蓄養施設は松原増殖場内の新施設が未完成のため平田試験地の旧施設を使用した。

1. 場所、彦根市平田町（平田試験池）
2. 使用施設

平田試験池鰻苗蓄養施設概要

- 1) 揚水ポンプ { 自動揚水式ヒューガルポンプ1台
動力揚水式電動機 (1/2 HP) 直結1台

地下水を汲上げ

- 2) 撒水カラン数

蓄養室内	16個
蓄養室外	4個
計	20個

Ⅳ 事業の経過及び結果

1) 鰻苗の購入

鰻苗購入に当っては種苗の主要生産地である静岡、千葉、茨城各県下を調査し、価格、供給能力ともに適当と思われた千葉県から購入した。又、購入時期は現地の魚況によって左右されるが本年度は計画時期（6～7月）よりやゝ遅れて下記のとおり実施した。

イ) 購入先 利根水産会社（千葉県）

ロ) 購入時期 自昭和34年8月21日

至昭和34年9月6日

ハ) 購入量	大型種苗	1,075kg
	小型種苗	369
	計	1,444

註：購入に際して価格に差があるため大型小型の2つに区別した。

ニ) 検収

鰻苗は到着後、直ちに斃死、損傷魚及び病魚など不良魚を除き、優良魚のみ秤量、検収し、体形測定の後蕃養した。

2) 蕃養

イ) 方法

蕃養は輸送に使われた遠州籠のまま積み重ね、蕃養場の撒水カランによって撒水した。

ロ) 蕃養期間 3～5日間

3) 放流

イ) 放流量、時期及び場所

購入した鰻苗は全量、昭和34年8月25日から昭和34年9月7日の14日間に琵琶湖周辺15地先に、当場所属放流船「志賀丸」（鰻苗放流と共用）を使用して表1の通り放流した。

ロ) 放流魚の体形

鰻苗は大型、小型の2つを区別したが、その平均体形は表2の通りであり、放流鰻苗全体の組成は図1、2の如くである。

表1 時期別，地先別放流状況

月 日	放 流 地 先	計 画 量	実 施 量		
			大型種苗	小型種苗	計
8月25日	海津知内浜分	240Kg	200.79Kg	40.03Kg	240.82Kg
	今津，湖西	190	186.73	20.31	207.04
	大 浦	66	46.15	20.31	66.46
	長 浜	}194	133.65	30.30	163.95
川 道	—		30.30	30.30	
8月29日	朝 日	}219	148.50	60.60	209.10
	竹 生		—	10.70	10.70
	塩 津	85	44.65	40.40	85.05
9月 7日	大津，湖南	155	121.87	35.42	157.29
	瀬 田	105	52.28	45.21	197.49
	山 田	155	121.87	35.42	157.29
	志 那	—	18.57	—	18.57
	計	1,409	1,075.00	360.00	1,444.00

表2 平均体形

平均体形 区分	平均体重	平均全長
大型種苗	25.14g	26.48cm
小型種苗	6.08	18.77
総平均	14.08	21.99

